

真南蛮(まなばん)貿易からわかること

—中継貿易が残した独自の文化

浦添市立浦西中学校 玉木幹雄

1. 琉球の貿易（朝貢・中継・真南蛮貿易）

琉球^{シキオ}～沖縄県～は地理的位置と諸外国の諸情勢の流れのなか、一時代の繁栄と独自の文化を開花させた。その要因となったのが中国（明）との朝貢貿易であり、朝貢貿易を利用した中継・真南蛮（琉球の古語で東南アジアの意）貿易である。この琉球王国発展の要因は、地図帳p.63②「南西諸島の周辺」「琉球王国時代の交易路」から導くことができる。

2. 朝貢（中継）貿易発展の理由

朝貢貿易を中国（明）と結んでいた国は琉球のほか、日本、安南（ベトナム）、シャム（タイ）、マラッカ（マレーシア）、ジャワ（インドネシア）、朝鮮である。とりわけ琉球が大交易時代という一時代を築けたのは、上記の地理的条件にもよるが、次の理由もある。

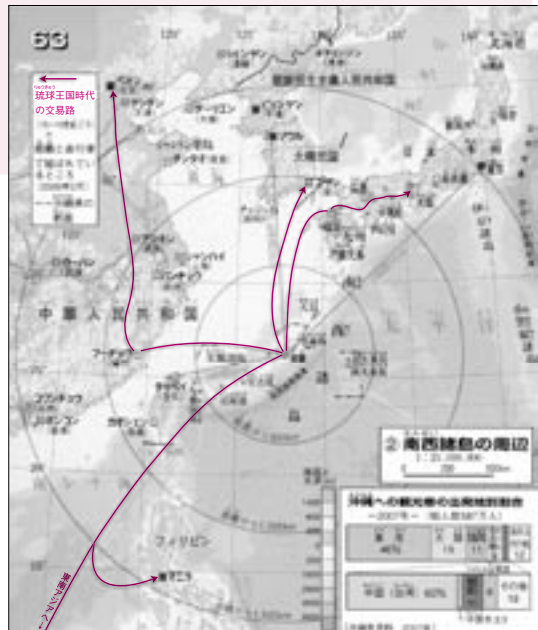
第1に、明では国内人民に対しての自由貿易を禁止した「海禁策」があったため、中国商人（華僑）の商品供給のルートを通じた琉球が代行できた。

第2に、朝貢関係を結んだ国々にも入域港の指定がされており、琉球が指定された入域港、福建省・福州地域で培った貿易のノウハウを習得する機会を得た。

第3は、朝貢による渡航回数の差（日本：10年に1度、安南・ジャワ：3年に1度、琉球：2年に1度もしくは毎年）が挙げられる。この渡航回数の差によって、中国皇帝から冊封^{さくほう}をうけ、朝貢貿易によって中国製品を大量に獲得・転売することができ、貿易資金の基盤をつくることのできたのである。

3. 貿易によって根づいた文化

朝貢・中継・真南蛮貿易によって琉球に文化として輸入され、琉球独自の文化に発展、今日も継承されている行事、もしくは工芸品等には次のようなものがある。



「中学校社会科地図 初訂版」 p.63



「中学校社会科地図 初訂版」 p.63

風習：墓造りは、福州の墳墓が発展し独自の変容を遂げた亀甲墓、その墓前で行われる道教からの風習である清明祭、念仏踊りが進化しての「エイサー」等があげられる。

芸能・武芸：中国の楽器、二胡^{にこ}を起源の1つとする説がある三線^{サンシン}の発達（さらに日本に伝わり三味線となった）や、冊封使^{かんせん}歓迎の冠船踊りから発展した琉球舞踊、唐手^{トウテン}を起源とする武術「空手」の完成。

食文化：東南アジア・タイのラオ・ロンの醸造法の沖縄の酒「泡盛」^{あわもり}（後に九州地方に伝わり焼酎）への影響等。

沖縄県の代表的文化が、中継貿易を起源とすることを学習することで 中継貿易路範囲の大きさと、貿易がもたらす文化の重要性を生徒たちに理解させることができる。